

農業者主体の鳥獣防除組合とサル駆除隊が活躍(愛知県豊川市)

- 対策の担い手として、市内15地区に農業者を主な構成員とする鳥獣防除組合を設置
- 鳥獣防除組合が生息環境管理、侵入防止、捕獲(わな)を組み合わせた鳥獣対策「三本柱」を持続的に実践
- テレメトリーによるモニタリング、サル駆除隊による追い上げと捕獲により市内全域でのサルの群れの管理を実現

取組内容

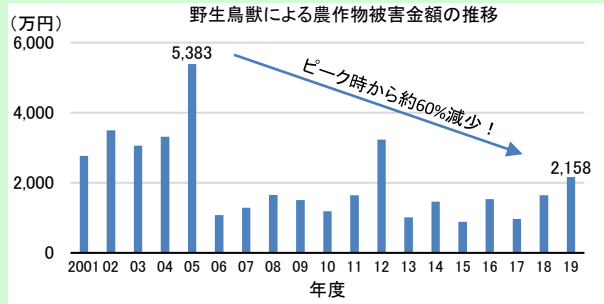
- 農業者を主な構成員とする鳥獣防除組合(以下「組合」という。)が、2002年に宝飯郡音羽町長沢(現・豊川市長沢町)で設置勉強会及び集落環境点検、ワイヤーメッシュ柵や電気柵による侵入防止対策に着手
- 同様の組合が長沢地区を含め豊川市内16地区に相次いで設けられ、活動を展開。2021年4月現在では15組合が活動中。結成時の構成員数は合計286名で、そのうち71名は狩猟免許を保有し、2021年時点で有害鳥獣の捕獲許可を受けている。2011年度からは、鳥獣被害防止総合対策交付金による侵入防止柵整備を急ピッチで実施
- すべての組合で狩猟免許を保持する構成員を確保し、侵入防止柵外周でのわな捕獲を実施



- 専門業者への委託によるサル群のテレメトリー調査を実施。臨時職員として雇用した8名(鳥獣被害対策実施隊員63名から選抜)からなるサル駆除隊を編成し、モニタリングに基づいた群れの管理を実施

成果

- 各地区で設立された鳥獣防除組合が鳥獣対策の担い手となり、農業者による主体的、組織的な農作物被害防止対策が実現。一部の構成員がわな猟免許を取得し、有害鳥獣の捕獲を開始
- 山裾沿い地区での組合活動は、山林から農地や市街地に向かう大型野生獣を食い止める役割も遂行
- 市内全域での取組が必要なサルについて、一元的な群れの管理体制を構築
- 組合が有害鳥獣捕獲の報奨金も活用した捕獲器具の増強、侵入防止柵の補修、改良を実施し、持続的な対策が実現。捕獲されたニホンジカ等の自家消費にも積極的で、コミュニケーションも促進



2000年代前半には3,000万円以上に及んだ農作物被害金額は、取組の本格化により1000~2000万円程度で推移

農業者主体の鳥獣防除組合とサル駆除隊が活躍(愛知県豊川市)

